

シグマ委員会核データ専門部会核データ
検索システム W. G. 議事録

日 時 昭和49年2月14日(木)
場 所 日本原子力研究所東海研究所
出席者 河原崎雄紀(原研), 更田豊治郎(原研), 川合将義(N A I G)
五十嵐信一(原研), 中嶋龍三(法大), 山越寿夫(船研)
金森善彦(三井造船), 中川庸雄(原研), 成田 孟(原研, オブ
ザーバー)

議 事

1. SPLINTテストランの検討

前回の検討結果に従い, 対象核種を拡げて行ったテストランの結果について話し合った。その内容をメモ程度に書いておく。

- 前はNESTORのデータは核種, Quantity, データ番号しかチェックしていなかったが, ステータスとratio 値かどうかもチェックする様にした。しかしデータ番号がインプットカードで指定された場合は依然としてチェックは行なわない。
- 共鳴領域においてRESENDのoutputに'-'の値が出る場合がある。
- プロットされた実験データが少なかった。これはpreliminaryなデータがrejectされたためである。preliminaryなデータがある事のコメント位はoutputして欲しい。
- 縦・横のLogかLinかを自動的に決定する事はできないのか?
- 共鳴領域で評価値と, 実験データが合わない場合があるがこれはパラメータを出した元のcross-sectionが一般に発表されない事によるのだろう。

- plot された実験データが何点あったかの情報を output して欲しい。
- inelastic scattering の level excitation については
KEDAK と NESTOR は level 毎の分離ができない。一枚のグラフは
全 excitation が入る様にして plot してみた。
- NESTOR のデータ番号を指定する場合、一枚の input カードに 2 つ
以上の番号が書ける様にして欲しい。
- グラフの保管をどこかでやって欲しい。
- SPLINT 用 input data sheet があるとよい。

2. 49 年度計画

(1) SPLINT に関して

SPLINT に関する今後の作業として考えられる事は

- (イ) なるべく沢山のデータを plot する。
- (ロ) 現在程度の plot (個人的使用を目的として) を行なう。
- (ハ) 担当者がいれば plot した結果を系統的にファイルしておく。
- (ニ) JND C ニュースで plot したデータについてアナウンスする。
- (ホ) 必要になる度に plot する。

検討の結果(イ)~(ハ)は本質的には同じであるので、その線にそって作業
を行う事にした。plot は次の様に行う。

Quantity ; σ_{total} , $\sigma_{elastic}$, $\sigma_{capture}$, σ_{inel} , σ_f

status ; preliminary data も plot する。

energy ; 10^{-3} eV 以上

X 軸 ; 40 cm 以下

Y 軸 ; 20 cm 位

期間は 5 月末とする。

(2) 新しいシステム作り

新しいシステム作り作業として次の様な事が挙げられた。

(1) COMFORD

- (ロ) 3次元プロット
- (ハ) データの現状表示
- (ニ) SPLINTのグラフィック化
- (ホ) NESTOR Indexを完備する
- (ヘ) PREDAST
- (ト) その他

どの作業を49年度行うか、またその内容等については次回検討する事にした。

3. 人 事

成田氏を49年度から正式メンバーにする。

-以 上-